

【榎本館長からのメッセージ】

5月から6月に切り替わるこの時期は、真夏日が続いたかと思えば4月ごろの肌寒い日に逆戻りといった不安定な天候が続く、体調も崩しやすく、気持ち的にもスッキリしない日が多くなります。夢の島公園の中も、GWと夏の合間で、派手さもなく静かにアジサイや木々の緑が落ち着いた色合いを放っています。そんな静かな彩の中、熱帯植物館ではヘリコニアやデイゴといった赤系の花や、ランタナのような黄花、他にも彩ある花や果実を見て楽しむことができます。そして昨年は花芽を付けずに無開花に終わってしまったジャカラダの花が昨年を挽回するようにしっかりと花芽を付け開花をはじめました。大変珍しい花でもあります、是非この機会に植物館へ足をお運びいただき、花に癒されるひと時をお過ごしください。

館長

季節イベントの紹介 (イベント・展示担当：関)

情報ギャラリー、イベントホールにて「素敵な暮らし ハーブ展」を5月31日～6月26日まで開催しています。ハーブは自然の力で私たちの生活を豊かにさせてくれます。気軽に暮らしの中にかす魅力をご紹介しますのでお楽しみください。この機会にハーブを取り入れてみてはいかがでしょうか？

パネル解説とともに、プランター、花瓶にはフレッシュハーブ、ドライハーブの香りサンプル、ハーブを使った生活用品や装飾品を展示しています。当館にはハーブ園もございますのでそちらのご案内もしています。また売店にてハーブ商品の販売もしておりますのでご利用ください。

☆「ハーブ展関連ワークショップ」☆

「虫除けスプレーづくり」(6/12、26)、「フラワーサシェを作ろう！」(6/25)



▲イングリッシュラベンダー

【イベントのご案内】

「ウィークエンドコンサート」(6/4、18)、「熱帯大温室で空中散歩体験」(6/11、12)、「ハーブの学校」(6/5)、「森の学校」(6/11)、「父の日にオリジナルうちわ&エコバッグを作ろう」(6/19)、「ミツバチ 夏編」(7/2、3)、「大温室ガイドツアー」(毎週土日曜日)など ※詳しくはイベントチラシまたは夢の島熱帯植物館までお問い合わせください。

外構で見られる植物の紹介 (植物館植栽担当：横平)

前庭とハーブ園にあるアーティチョークは、その大きさから異彩を放っています。高さは1.5～2メートル、葉の大きさは50～80センチにも達する多年草です。花は8～15センチにもなり両手でようやく収まるかどうかの大きさです。

原産地は地中海沿岸、古代ギリシャ・ローマ時代にはすでに野菜として珍重され、栽培されていたようです。今もヨーロッパでは、スーパーなどで簡単に手に入ります。

アーティチョークはハーブの一種として、食用や薬用に利用されています。食べ方は、蕾を茹でて周りの萼を一枚ずつ外し、根元の部分を歯でしごくようにして食べます。また花托はアーティチョーク・ボトムといわれ香りが高く、ほろ苦くサクサクしたイモのような味がするそうです。フランス人が植民地時代に持ち込み、現在も栽培されているベトナムではお茶としても利用されています。薬用には、消化と胆汁の促進、動脈硬化の治療の他、利尿薬としても用いられるそうです。



▲アーティチョークの花 (キク科)



全体

和名は、チョウセンアザミ(朝鮮薊)といえます

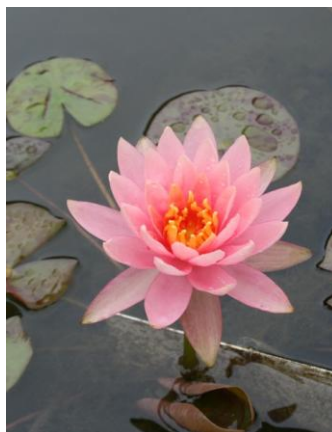
今月の花と実



▲ サンゴシトウ



▲ ジャカラダ



▲ 熱帯スイレン

♪ この時期の人気者 ♪

今年は何年といっても、葉が落ちずに越冬したジャカラダが目玉。かつてないほど花芽がつき、散る花で足元がブルーに染まります。池にはボランティア会と共に植え替えた睡蓮鉢が沈み。燃えるような枝ぶりのサンゴシトウの赤も目をひきます。白玉状のツボミが弾けるように開くマートルの花も爽やかなチコリの水色の花。植物の開花や佇まじい心ときめきませ

予告：次回は6/25の発行予定です。

【一色入茶】  
コーヒークリーム  
一杯無料  
6/1～6/30